

いまこそ、 公共交通プライシングを 見直すとき！ ～研究小委員会立上げの趣旨と方針～

地域公共交通プロデューサー
名古屋大学大学院環境学研究科教授
土木学会土木計画学委員会公共交通プライシング研究小委員会委員長
加藤 博和

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kato/Jkato.htm>
kato@genv.nagoya-u.ac.jp

はじめに

日本の地域公共交通の運賃は、
このままでいいと思いますか？

- **モード別・事業者別**。乗継設定も一般的でない
- 自治体運営バスが低運賃で簡潔に設定され、一般路線バスと**二重の体系**に
- 普通、回数、定期(通勤／通学)という**伝統的な区分**
- 原則固定(**季節・時間変化なし**)
- そして、大半の地域で20年以上(消費税対応以外)**変更がない**

「硬直した運賃制度」の変更が諸問題を解決？

→ **公共交通プライシング研究小委員会を
立ち上げた理由**

公共交通プライシング研究小委員会 設立趣旨

- 公共交通サービスは人口減少・超高齢化社会において重要な役割を果たすことが期待
- 一方、乗務員不足、MaaSへの対応、独占禁止法適用の見直しなど、事業を取り巻く環境が大きく変化し、**マネジメントの大変革が求められている**
- これらの**根底**にあるのが**プライシング**の問題
- 日本の公共交通事業は、「**独立採算**」「**総括原価**」に基づいたプライシングを原則としてきたが、そのままではいま必要な**大変革への対応が不可能**
- 公共交通のプライシングに関する国内外の**現状と課題について俯瞰**するとともに、特に日本における今後の公共交通プライシングの**あり方について議論**を行い、**具体的な提言**へとつなげていきたい

公共交通プライシング研究小委員会 研究内容（6月当初案その1）

『理論』 プライシングに関連する諸理論の検証

産業組織論、規制の経済学、公益事業論、公共経済学、マーケティング論、経営戦略論などにおける**プライシングの扱いを整理し、公共交通サービスとの違いを検討**

『事例』 公共交通プライシングの実践例の蓄積

競争下の運賃料金（高速バスなど）、定期券・サブスクリプション、ICカードのマイレージなど

『制度』 公共交通プライシングの制度面の検証

理論と現実の乖離を明確にする

『分析』 公共交通プライシングに関する計量分析

需要曲線や費用構造の特定、公的補助の影響、負担割合の検討、運賃設定

公共交通プライシング研究小委員会

研究内容（6月当初案その2）

- 総括

様々な公共交通の形態・状況に合わせた**プライシングのあり方**の検討。**公共交通計画・制度**にどう生かせるかの**提言**

- 発信

土木計画学研究発表会におけるスペシャルセッション・企画セッション、**ワンデイセミナー**、**公共交通マーケティング研究会**（小委員長が幹事代表を務める）の例会、その他関連学会での発表等

最終のまとめについては**ウェブサイト**としてまとめることを考えている。

具体的な課題例

- 総括原価方式に代わる基本コンセプト検討
 - 時間帯別運賃、混雑課金
 - 地域公共交通会議における運賃設定
 - 鉄道、軌道、バスの一体的な運賃体系構築
 - 乗継割引、ゾーン運賃、特定カテゴリの割引、
 - サブスクリプション設定(利用と経営のバランス)
 - 自家用有償運送の対価設定(法改正で「目安」がなくなる)
 - 独禁法特例法の活用(プール制、共同経営そして運輸連合へ)
- **他の課題も含め、積極的に研究に取り組んでいただける方、ぜひ委員に加わってください(加藤までご連絡を)**